

## 第12回 POLUS-ポラス-学生・建築デザインコンペティション 二次審査会 受賞者決定！



### 最優秀賞『暮らしは路にこぼれて』 優秀賞『編まれる時間の住まい 分断された生活行動を連続する時間体験へ』

ポラスグループ  
ポラス株式会社

ポラスグループ ポラス株式会社(本社:埼玉県越谷市、代表取締役:中内 晃次郎)は、2025年6月30日(月)に『第12回 POLUS-ポラス-学生・建築デザインコンペティション』の二次審査会を開催し、厳正な審査の結果、最優秀賞1点、優秀賞1点、入選3点を決定しました。

本コンペティションは、「“t軸”の家／家々」をテーマに2024年11月29日から2025年5月8日にかけて作品を募集しました。応募作品599点から一次審査を通過した5点について、学生のプレゼンテーションや審査員との自由討議を経て、各受賞者を決定しました。

本コンペティションは、大学院や大学、高等専門学校などに通う学生を対象に、建築の道を志す学生の自由で新鮮な発想を表現・公表する機会を提供することで、将来活躍が期待される学生を応援しています。

#### 最優秀賞／暮らしは路にこぼれて

小林 由芽・野澤 沙帆(武蔵野大学)

#### 優秀賞／編まれる時間の住まい 分断された生活行動を連続する時間体験へ

所 新太郎・井口 雄貴・鈴木 理沙(慶應義塾大学大学院)

#### 入選／レジリエントな土壁

儲 立人(デルフト工科大学大学院)・宋 宇軒(中国美術学院)

#### 入選／月と太陽の降る里

矢野 泉和(九州大学大学院)・菊池 慎太郎・山之口 涼霞(九州大学)

#### 入選／はみ出す境界、つながるのりしろ

村上 寛明・中村 日香(広島工業大学大学院)



審査委員(前列)と入賞した学生の皆さん



質疑応答の様子

## ■最優秀賞受賞者コメント

作品名／暮らしは路にこぼれて

小林 由芽(武蔵野大学)

t 軸についての捉え方と、平面から高さを出す断面計画に取り組み、こういった形で最優秀賞という賞を頂けて大変嬉しく思います。ありがとうございました。

野澤 沙帆 (武蔵野大学)

このような光栄な賞を頂けて嬉しいです。今日の朝8時まで準備し、電車の中で原稿を書いていたのですが、諦めないで最後までやり遂げて良かったと思いました。協力してくださった方に感謝申し上げます。



暮らしは路にこぼれて 模型

## ■審査委員の講評 審査委員長 西沢 立衛氏 (横浜国立大学大学院建築都市スクールY-GSA教授)

多数の応募があり、審査も長い道のりで、本当に最後まで決められるのかと心配がありましたが、皆さんのプレゼンテーションが非常に分かりやすく良かったです。

振り返ると、一次審査の作品を選ぶことが一番大変でした。しかし、二次審査では、皆さんの言葉の力、模型の力によって、内容がよく伝わってきました。やはり、言葉と模型に対する信頼が、我々の中にあると思いました。

一番、二番と順位がついたのですが、時と場合によっては違う結論になることもありますので、あまり順位を気にしないでいただきたいと思います。むしろ、大学で受けている講義と違った批評を得られる場として理解し、今まで考えてこなかった回路を使うという気持ちでこの場を活用していただければ、より良い建築につながると思います。

## ■審査委員

審査委員長 西沢 立衛 (横浜国立大学大学院 Y-GSA 教授)

審査委員 今井 公太郎 (東京大学生産技術研究所 教授)

原田 真宏 (芝浦工業大学 教授)

中川 エリカ (中川エリカ建築設計事務所)

野村 壮一郎 (ポラス社内審査委員)

本件に関するメディアからのお問い合わせ先

ポラスグループ ポラス株式会社 コミュニケーション部 広報課

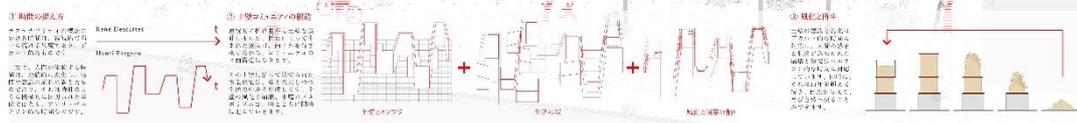
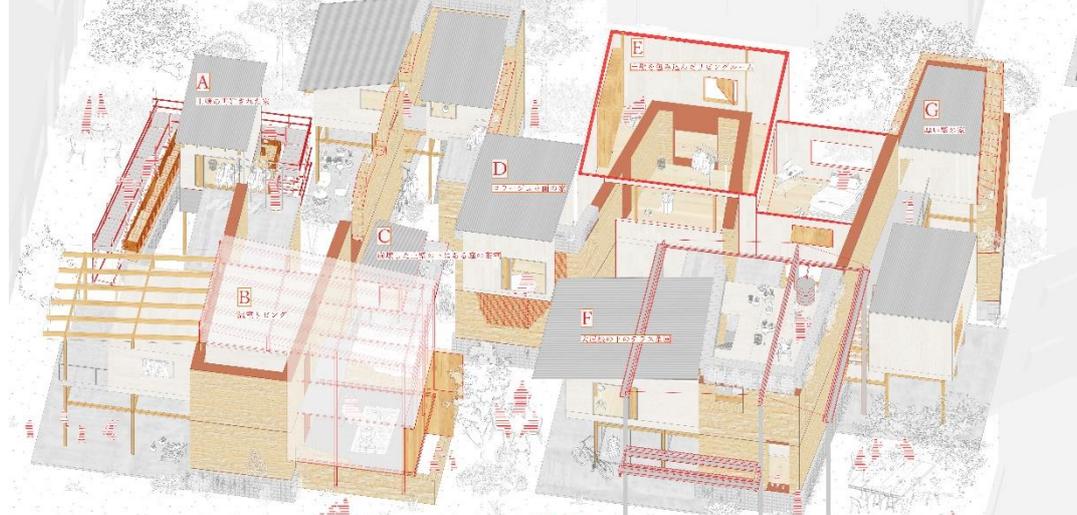
TEL:048-989-9151 / FAX:048-989-3180



# ■入選 / レジリエントな土壁

## レジリエントな土壁

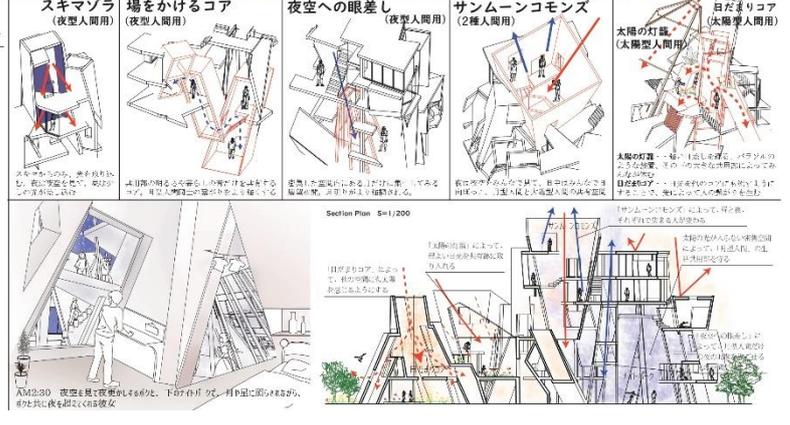
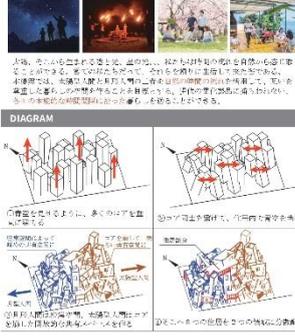
大規模な地震、津波、火災、人口増加、気候変動による自然災害の頻発や、大規模な都市計画によるインフラの老朽化や環境変化に起因する災害リスク。災害発生時の人命救助や、災害後の生活基盤の再構築が重要な課題となっています。このプロジェクトは、災害発生時の人命救助や、災害後の生活基盤の再構築が重要な課題となっています。このプロジェクトは、災害発生時の人命救助や、災害後の生活基盤の再構築が重要な課題となっています。



# ■入選 / 月と太陽の降る里

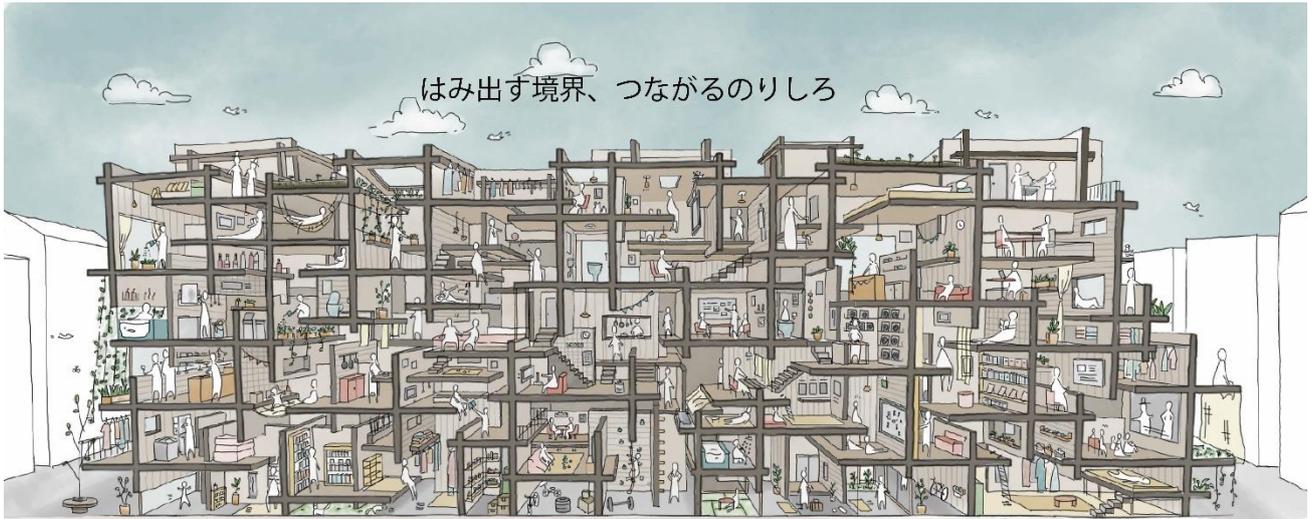
**01 背景** 2つの時間を生きる暮らし  
 月と太陽の降る里は、自然の恵みを受け、暮らす人々の生活が豊かになる場所です。ここでは、自然の恵みを受け、暮らす人々の生活が豊かになる場所です。

**02 提案** 自然の時の流れ (+1軸) に任せて暮らし  
 太陽の恵みを受け、暮らす人々の生活が豊かになる場所です。ここでは、自然の恵みを受け、暮らす人々の生活が豊かになる場所です。



FLOOR PLAN S=1/180  
 コアが縦軸を担い、住人に人の光を届けるようにする  
 コアの芯に太陽と月を置き、太陽の光が降り注ぐようにする  
 コアが縦軸を担い、住人に人の光を届けるようにする  
 コアの芯に太陽と月を置き、太陽の光が降り注ぐようにする

# ■入選／はみ出す境界、つながるのりしろ



**01. 身体とは境界をつくらないことである**  
 人は身体を境として空間を区別して生活している。CO<sub>2</sub>、湿度、光などの境界、それらが人の身体と境界をつくらないことである。

**02. 家に存在する場所**  
 家に存在する場所として、床、壁、天井が存在する。ここでは、家に存在する場所の境界を、人の身体と境界をつくらないことである。

**03. 人とのつながりは特約的な境界を作り出す**  
 人は人とのつながりによって生活している。人、物、空間、時間、場所、人とのつながりによって生活している。ここでは、人とのつながりによって生活している場所の境界を、人の身体と境界をつくらないことである。



**04. 時間とともに変化するのりしろ**  
 人は時間とともに生活している。ここでは、時間とともに変化するのりしろを、人の身体と境界をつくらないことである。

**05. のりしろをつくる**  
 のりしろをつくるには、人の身体と境界をつくらないことである。ここでは、人の身体と境界をつくらないことである。

